

LAS VEGAS

AWS re:Invent 2016

11.28 - 12.2

01 REPORT.01 AWS re:Invent 2016 に参加しました!

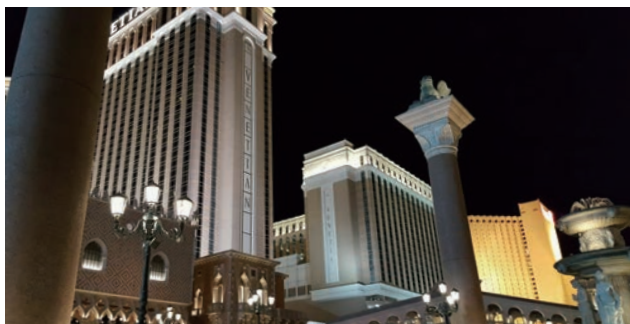
昨年2016年11月28日～12月2日にアメリカ・ラスベガスで開催されたAmazon Web Service(以下AWS)最大のイベントである「AWS re:Invent 2016」に参加してきました。

AWS re:Inventは2012年から毎年開催されており、クラウドサービスの今後の取り組み方針や、新プロダクト、既存プロダクトのアップデートが多く発表される、非常に注目度の高いイベントです。今回は世界中から32,000人が参加しており、日本からも700人が参加していました。これは2015年開催時の参加者数と比べ1.5倍以上となっており、クラウド関係のイベントで最も注目度の高いイベントと言っても過言ではありません。

クラウドというキーワードは現在では多くの場面で使われています。AWSが提供するインフラとしてのクラウドサービス

も、既に国内においても定着しつつあるように感じます。今回のイベントでも、AWSの基調講演で、ただ『利用する』だけの時代は終わり、いかに『活用する』ことで価値を生み出せるかに、今後多くの力を入れていくと語られていました。

プロダクトに関してはAI、IoT、ビッグデータ分析といったトレンドに沿った多くの新プロダクトが発表されました。新プロダクトが発表されるたびに、聴講者から歓声上がるなど、海外においてもこれらの分野の注目度が非常に高いことが伺えました。



イベントの会場であるラスベガス



AWS re:Invent 2016の会場内



02 REPORT.02 これから注目のAWSサービスとは

AWS re:Invent 2016で発表された数々のAWSサービスの中でも、最も注目のサービスを3つ紹介します。

attention 01

人工知能 (AI)



Amazon Lex

Google、Microsoftなどクラウドの分野で力を入れているテクノロジー企業が、相次いで人工知能(機械学習)関連のサービスを発表するのと同様に、AWSも特にこの分野に力を入れていることをAWS re:Inventでは感じました。

音声とテキストをインプットとして会話型インターフェースを構築できるAmazon Lex、テキスト文章から話し声になる音声データを作成できるAmazon Polly、画像認識できるAmazon

Rekognitionなどが発表されました。

特に画像認識は、5000枚まで無料など、非常に導入しやすい内容です。

これまでは、対話、音声合成、画像認識などのシステムを構築するには、非常に多くの基礎データとコンピュータ資源が必要でした。そのため、簡単にシステムに組み込むことはできませんでした。が、今後はより簡単な導入の実現が期待できます。

attention 02

ビッグデータ分析



Amazon Athena

今回新たにAmazon S3に対してSQLの発行が可能となるAmazon Athenaの発表や、QuickSight、Glueなど、多くのビッグデータ活用関連のサービス発表がありました。ビッグデータ分析サービスは世界的に注目度が高いためAWSとしても力を入れているようです。特にAmazon Athenaは、Webサービスの運用時や行動履歴のログなどを保存する用途で多く利用されているS3を、直接データベースとして利用できるようになり

ます。その結果、現在ビッグデータ分析の過程で行っているログデータの移動や、分析用データベースへのデータ連携などの仕組みを省略できる可能性を持っています。ビッグデータ分析に必ず付いて回る準備作業コストの削減や、これからデータ分析に取り掛かろうとしている場合の敷居の低下など、多くの課題により影響を与えるプロダクトになると考えられます。

サーバーレスアーキテクチャ



AWS Lambda

AIやビッグデータ分析と同様、注目を集めていたキーワードの一つに、「サーバーレスアーキテクチャ」があります。サーバーレスアーキテクチャとは、AWSなどのマネージドサービスを活用し、サーバーを所有せずにシステムを構築する手法です。システム開発におけるサーバーやミドルレイヤーの構築といったシステム本筋の機能開発とは異なる作業を不要とするばかりでなく、インフラ維持、運用の観点でもコスト削減につながるため、注目度が高まっています。今回のイベン

トでは、サーバーレスアーキテクチャのコアとなるサービスAWS Lambdaのアップデートが発表されました。特にAWS Lambda用に開発したファンクションをIoTデバイス上で実行できるようにしたGreengrassは、注目度の高いプロダクトでした。まだテスト段階でのリリースでしたが、既存の技術であるAWS Lambdaファンクションのスキルを応用できる点やIoTデバイスのオンライン/オフラインのデータ同期などに対応しているため、開発の敷居を下げてくれると考えられます。

フェンリルでのサーバーレス開発

AWS re:Inventでも注目度が高かったサーバーレスアーキテクチャについては、フェンリルでもいち早く注目しており、すでに多くのお客様との共同開発においてAWSのマネージドサービスを採用しています。サーバーレスアーキテクチャ導入のポイントは、マネージドサービスの仕様と多くの制約を理解し、それらを適材適所に採用することです。これには導入経験と最新情報へのキャッチアップがものをいいます。フェンリルではAWS認定を持つエンジニア達が、日々AWSの最新情報を追い続け、そのアップデートに一喜一憂しています。

マネージドサービスという独自の処理ができないのでは？と思われるかもしれませんが、この点はAWS

Lambdaで解決できます。AWS LambdaはNode.js、Java、C#、Pythonのプログラムを、サーバー所有することなく実行できるサービスです。フェンリルではServerless Frameworkを用いてAWS Lambda開発に取り組んでいます。AWSのAmazon API Gatewayを組み合わせることで、独自のサーバーレスAPIを実現することができます。

なお、サーバーレスアーキテクチャは新しい技術がゆえに多くの落とし穴もあります。しかし、うまく活用することでサーバーの設計・構築・運用の手間を削減し、従量課金制によるコストメリットを出すこともできます。2017年はフェンリルとサーバーレスアーキテクチャを活用したアプリ開発に取り組んでみませんか？

サーバーレスアーキテクチャの核となるAWSサービス



Amazon API Gateway

APIを構築、発行、および管理する



AWS Lambda

イベント発生時にコードを実行



Amazon S3

クラウド内のスケラブルなストレージ



Amazon Cognito

ユーザーIDおよびアプリケーションデータの同期



Amazon DynamoDB

NoSQL、スキーマレスなAWS上のデータベースサービス

お知らせ 1

フェンリル初のコーポレートイベント Fenrir One 開催!!

2016年12月1日、グランドハイアット東京にてフェンリル初のコーポレートイベント「Fenrir One」を実施しました。

「お客様との結びつきを強め、ひとつになる」ことをテーマに開催し、数多くのお客様にご来場いただきました。

当日は、CEO牧野のご挨拶から始まり、「スマートデバイス・アプリは今後どうなっていくのか」というテーマでパネルディスカッションを催しました。アプリケーション共同開発部部長田林、デザイン部次長 荻野に加え、共同開発部門の発足当時からお付き合いのある大成建設株式会社の田辺様、株式会社キタムラの逸見様をパネラーに、モデレーターにはフェンリルがス

ポンサーをしている「backspace.fm」の松尾様をお迎えしました。懐かしい昔話から最新技術で溢れる未来予想まで飛び出すなど、非常に盛り上がりました。後半の懇親会では、商談とはまた違った雰囲気でお客様とお話しする貴重な機会となりました。また、業種や職種も様々なお客様同士で盛んにお話しされている様子から、Fenrir Oneが新たなハピネスが生まれるきっかけになったと感じています。今後もフェンリルの良さを知っていただき、皆様に楽しんでいただけるようなイベントを企画してまいります！



お知らせ 2

Brushup 会社設立!!



Brushup

フェンリルでは、レビューツール「Brushup」の事業を加速させるため、2017年2月1日に新会社「株式会社 Brushup」を設立しました。2015年3月にリリースした「Brushup」は、2017年1月、導入企業が1000社に達しました。

Brushupは、イラスト、写真、動画の製作工程において、プロジェクトの関係者とデザインを確認するフローを効率化するためのデザインレビューツールです。

リリース当初は、ゲームのイラストやウェブデザインの製作にかかわる企業の利用が大半でした。しかし、現在、広告業界、出版業界、教育機関など、さまざまな業種でBrushupの利用がはじまっています。企業や教育機関のBrushupを活用したレビュー文化を根付かせることで、ビジネスの生産性や学生の学習効率の向上に貢献します。

お問い合わせ

フェンリル株式会社

E-mail : fenrir.b2b.sales@fenrir.co.jp

大阪本社

〒530-0011

大阪市北区大深町3-1 グランフロント大阪タワーB 14F

TEL : 06-6377-7606 FAX : 06-6377-7609

東京支社

〒141-0031

東京都品川区西五反田2-27-3 A-PLACE五反田 5F

TEL : 03-5719-3321 FAX : 03-5719-3325

名古屋支社

〒461-0001

愛知県名古屋市中区泉1-21-27 泉ファーストスクエア 4F

TEL: 052-957-3240 FAX: 052-957-3241